

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日			作成者	鈴木 悠平	
作業名称	点検通路手摺支柱据え直し		作業手順書	作成年月日	令和4年9月21日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	4tユニック			改正年月日		
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	土砂、スコップ、CRC、ラジオペンチ、締固め用の棒			現場責任者		
				協力会社	会社名 -	
保護具	ヘルメット、手袋、防護メガネ、耐切削手袋			協力会社責任者	自筆サイン -	
				作業順序		
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	自動車運転免許証			1	現地確認	
	技能講習:小型移動式クレーン			2	準備作業	
	特別教育:振動工具			3	基礎据え直し	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人			4	片付け	
	合計 3名			5		
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日	令和4年9月14日	6	
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)				7	
					8	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)								
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認						
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認 荷台の養生確認	荷台の荷物が走行中に車線に流出する	△	×	△×	4	荷台の養生を2人以上で確認する
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。						
現地確認(全員)								
	作業箇所確認	危険ポイントの確認						
	周辺安全確認	構造物の確認						
基礎据え直し (責任者、作業員)	事前準備、必要であれば草刈鎌を使用し草を刈る	手元注意	鎌で手を切る	△	×	△×	4	耐切削手袋を着用し作業する。草刈機等使用する場合は仕切り直し手再度作業する。
	チェーンの端部シャックルを取り支柱とチェーンを切り離す。	手元注意						
	ユニックを使用し、支柱を基礎ごと持ち上げ、安定した場所に残置する。	周囲確認、ユニック操作注意	持ち上げた基礎が人や物に接触する	△	×	△×	4	吊りに揺られる場合は補助ロープを使用し周囲を確認し作業する
	床に土砂を入れ基礎が垂直になるよう床直しを行う	手元注意						
	基礎を据え直し、支柱が垂直かどうか確認する。	周囲確認、ユニック操作注意 支柱の垂直確認						
後片付け (責任者、作業員)	清掃 荷台養生	破片、工具等が残っている						工事車両を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事